
ネギま！～現神の言う通り～

クス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネギま！〜現神の言う通り〜

【Nコード】

N5899Y

【作者名】

クス

【あらすじ】

地球を我が物顔で侵攻してくる魔法使いたちについて神様たちがブチ切れた！

これは、現代地球に生まれた神様が魔法使いたちに絶望を贈る物語！

「神様だから・・・。」

「できないことは何もない・・・。」

そんな感じ！

プロローグ 1985年(前書き)

初めまして！

ゆるくいきますのでゆるく！

プロローグ 1985年

京都・関西呪術協会本山

「それで、どういうお積りでしたのかな？」

「そつ、それは……。」

関西呪術協会の本山の奥、長との面会に使われる広間にて二人の男と一人の女がいた。

まず最初に疑問を投げかけた鋭い目が特徴の壮年の男、名を土御門つちのみかど元親もとちかといい現関西呪術協会の長代理である。

そして、その隣にここにこしながら座っている大和撫子を絵に描いたような女、名を近衛このえ木葉きはといい現関西呪術協会の長である。

なぜ、長が居るのに代理がいるのかというのを簡単に説明すると、代々長の任を任されていた近衛家にある問題が生じ、さらには、男児に恵まれず、仕方なく長女であった木葉が長になることになったが、改善されてきたとはいえ男尊女卑がまだ色濃く残っている日本で女性の長は認められない。なので関西呪術協会No.2である土御門家の当主を代理として立てることにしたのである。

そして最後に二人に対面する形で座っている眼鏡をかけた細身の男、

名を青山 詠春は京都神鳴流の宗家である青山家の次期当主である。
が、今はただ目の前にいる二人の気迫に押され断罪を待つ情けない
子羊も同然である。

「それは？」

木葉が答えを催促し、

「久方ぶりの帰郷に厄介ごとを持ち込んだ理由はどんな理由なん
でしょうな。」

元親が嫌味をいう。

木葉が「ほんになあ」と追撃。

ついでに言っておくと木葉と元親は立場的に複雑な事情を抱えてい
るが友人としての仲はともいいのである。

「それで・・・彼の地での戦争の中核であり、現在進行形で敵対関
係にある魔法使いたちの英雄である紅き翼を本山内に招き入れよう
とした裏切り行為の正当な理由とはどのようなものなのでしょうか
？」

そういいながら元親は長く鋭い目を詠春に向ける。

「今回の紅き翼の訪問はただ友としてのものです。それに！もう戦

争は終結したではありませんか。これからは、魔法使いとも仲良くして行くべきではないと思います。これがその切っ掛けになればと・・・

「ようやく詠春はその口を開き弁解するが元親、木葉の目はさらに厳しくなる。」

「詠春はん残念なんやけど、こつちでの戦争はまだ終わっておらんよ。」

話が分からないような詠春に木葉が説明する。

「今度の戦争は確かに魔法世界の戦争に連動して行われたものやけど、ウチらが戦争してたのは関東魔法協会や。魔法世界の戦争が終わったからと終わるものやない。それに、先に攻めてきたのは向こうや、もし和平の交渉をするんなら向こうから出すべきやろ。」

「確かにそうや、それになあ〜！」なんですか。」

「今んところウチらが優勢やし、今夜あたり一気に仕掛けようと思つてるのよ。」

そついいながらニタァ〜と笑う元親と木葉の顔はとても恐ろしいものだった。

プロローグ 1985年（後書き）

これから小説を書いていく予定のクスです。

よろしくお願いします。

プロローグ2 1985年(前書き)

こんにちは！

また会えましたね！次があつてよかった。

プロローグ2 1985年

「それで一気にとは何をなさるんですか？」

少しずつ状況を理解してきた詠春は自らも出番もあるのではない
ながら聞いた。

「ああん、簡単やちよつと借り物をな、返すだけなんや。」

怖い顔をひこめた木葉が軽く言う。

「返す？」

それだけでは解らない詠春が聞き返す。

「そう……。返すだけや。」

木葉は意地の悪い顔で言う。

「そろそろですかな。」

しばらく黙っていた元親の声に続くように何かの叫ぶ声が京都中に
響き渡った。

京都市内 ホテル

詠春が本山で絞られている頃。

京都に観光に来ていた紅き翼のメンバーはホテル内でくつろぎながら今後のことに関して話し合っていた。

「それにしても、まさか門前払いされるとはなあ〜。」

ブツツとリーダであるナギ・スプリングフィールドが愚痴る。

「仕方ないじゃろ。こと戦争に関しては少なからず我々も関わっているのじゃし。」

愚痴るナギに対し妻であるアリカ・アナルキア・エンテオフユシアが窘める様に言う。

「それに、面白がって応戦したお前やラカンのせいで更にややこしくなっただからな。」

まったく呆れるようにガトウ・カグラ・ヴァンデンバーグが続ける。

「いやーあれはしょうがねーだろ。向こうから仕掛けてきたし。」

ガトウの悪態に悪びれる様子もなくジャック・ラカンが返した。

「だからって周りの鳥居まで壊さなくても……。」

タカミチ・T・高畑が祟られたらどうするんですかと呟く。

「その話は後で考えるとして、これからどうします。」

アルビレオ・イマが話題の修正を行う。

ちなみに、ここにはあとアスナ・ウェスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシアがいるが絶賛夢への舟をこいでいる最中である。

「まあ、ここはせっかく来たんだし京都をゆっくり観光して様子見ていいだろ」

ナギが珍しくまともなことを言って場をしめるとそろそろ寝るかと思ふ皆が動き出す。

「ナギー！これから飲まねえーか？」

「いいな！行くぜ！」

「それでは私も。」

「俺も行くぜ。」

ラカンの提案に大人の男四人は乗り夜の街に繰り出すことになった。

「では、私たちは先に部屋に戻っているぞ！ナギー。」

そう言いながらアリカは舟をこいでいるアスナを起こそうとする。

その時！

ピキッ

凍りつく様な威圧が全員を襲った。

ブローグ2 1985年(後書き)

名前が長い・・・orz

誤字脱字ありましたら気軽に指摘ください。

それでは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5899y/>

ネギま！～現神の言う通り～

2011年11月18日05時52分発行